

混和会とは、共に許し合いながら、他の人格を尊重し、共に生きる和の構築を目指す集いです。

ほとけの 混和会だより

令和四年十一月

東光院

仏の混和会

第163号

高地獄に 急速に 進路む



グテーレス国連事務総長

十一月六日〜十一月十八日
エジプトにて第二七回国連
気候変動枠組条約締約会議
(COP27)が開かれました。

グテーレス国連事務総長
の演説は熱のこもったもので、
「我々は気候変動の地獄へ
高速道路をアクセルを緩め
ること無く突っ走っている」と
言っておられました。
又、世界の指導者たちを前

に、「人類は地球温暖化との闘
いで協力するか、あるいは滅亡
するかどちらかである。」
更に、「気候問題の原因は、
人間の活動です。したがって、
人間の活動で解決しなければ
なりません。」と発言しておら
れました。

このまま放置しておけば人
類はもとより生物の生存その
ものを許さない状態になること
が科学的にも明らかに成ってお
ります。
問題回避の期限は2030年
〜数年の内に、世界の人人々、
一人一人の自覚と行動が最も
重要とのことでした。

比叡山宗教サミット メッセージ2022

比叡山宗教サミットに於いて
もこの気候変動問題に対して、
世界各地より諸宗教の指導者
が隔たりを超えて一同に集い
宗教者としての責務を審議され
2022年のメッセージとして
下記の如く提唱されました。



8月4日比叡山宗教サミットが
開催されて気候変動の宗教者
の責務について審議されました。

我々宗教者は人々と共に、

「よりよく生きるとは何か」につ
いて考え、従来の経済成長型の
ライフスタイルから、環境重視
型(共生型)への生き方のほう
が、より人間らしい生き方であ
るという意識の変革に努めて行
くべきである。その意味で宗
教者の果たすべき役割は大き
く、その責務は大変重いものが
あると自覚するものである。

【メッセージの一部抜粋】

以上の如く比叡山より世界の
宗教者並びに信者の皆様に向け
てメッセージを配信されました。
私達僧籍にある者は、人々の
幸せの為に豊かさや経済発展を
祈り、競い勝つことだけを願って参
りました。

しかし、様々な命をつなぎな
がら、人類の身勝手な思いを受
け入れて下さったこの地球は、
私達の経済成長と言う願望を
受け入れることに限界が生じ
て居るようです。

そこでこの宗教サミットに於
いて様々な生命は自然の営みの
中で共に生かされて居る事を
「自然と私達、そして人と人、
共に生きて、共に生かされ、
共に生きる」この「共生」の
理解を人々と共に深めて行く
事を誓願されました。



私達の生きる指針として来た
経済成長、この根幹を改めると言
うことは、地球環境は大変逼迫
した状態にあるようです。

このような状況下に於いて
「競争」から「共生」へ、とても
有意義な事と存じます。亮観拝



去る九月二五日、富山県立山町に昔から伝わる「布橋灌頂会」という伝統仏教儀式に参加して参り致します。今回はこちらを紹介致します。

● ぬのばしかんじょうえ 布橋灌頂会

北アルプスに位置し日本三霊山の一つの立山連峰は昔から人を寄せ付けない厳しい自然環境から地獄霊場として知られてきました。

また、生前の積み上げた罪の軽重によって死後地獄に落ちるとする思想から、地獄巡りは墮地獄と考え無事に下山する事は地獄からの生還を意味し死後の極楽往生が約束されるとされ、滅罪を目的とする立山善定登拝が盛んに行われました。しかし霊山とされる立山も



女人禁制の登山は許されませんでした。そこで極楽往生を願う女性救済の為、立山登拝の拠点集落に流れる川を境にあの世(彼岸)とこの世(此岸)

とし、布橋と言う名の橋が架けられました。

秋の彼岸にこの世側にある閻魔堂にて女性衆は先ず現世の罪を拭い去り心身共に清める為懺悔をし、死者の装い(白衣)に着替え目隠しをし旅支度をします。

そして橋を渡りあの世へ向かい真つ暗なお堂(死後の世界)へ導かれます。堂内にて神仏へ祈りを捧げ澄み切った心になった時お堂の扉が開かれ光り輝く神々しい霊山立山の姿を目にし立山と極楽浄土と縁を結びます。この橋を渡り帰ってくる事は一度死に生まれ変わる事を意味し、この一連の儀式を布橋灌頂会といいます。

現在ユネスコ未来遺産にも指定され三年に一度行われおられます。しかし感染症の影響で実施が見送られ続け、今年五年ぶりに開催されました。有り難い事に私にはあの世から導く僧侶として法要儀式に参加し貴重な経験をさせて頂きました。全国にも珍しい疑死再生による女性の為の伝統儀式。来年も秋の彼岸に正規の年として開催を予定し、六月頃に全国の女性へ参加者を募集するとの事でした。ご興味がありましたら富山県立町観光協会をご確認ください。



「生物の多様性」

雨のお陰で様々な生命が芽吹き、太陽のお陰で木々は元気に成長し、落ち葉のお陰で微生物は活発に動き、微生物のお陰で豊かに森が育ち、豊かな森のお陰で自然環境は浄化され人類は元より様々な命は、安心に満たされた日々を歩む事が出来ます。

この大自然の営みの中で、共に大いなる慈愛心を捧げることが出来る時、

- ◎ 共に生きる安心。
- ◎ 共に生かされる感謝。
- ◎ 共に活きる喜びが得られます。

そして環境重視型の共生社会が築けるものと思われま

亮観拝

如何に生きる 大自然の営み

「自然との共生」

「自然と私達、そして人と人共に生きて、共に生かされ共に活きる」

十月三十日(日曜日) サツマイモ、落花生、枝豆の収穫祭を執り行いました。



十一月十三日(日曜)

お蕎麦の収穫を行いました。



沢山のおにぎりをにぎってくださった皆様、ご奉仕頂いた皆様、誠に有り難う御座いました。心より御礼申し上げます。亮観拝